

# 広島大学

令和6年度一般選抜(後期日程)

## 出題の意図

科目名:小論文

歯学部 歯学科

解答の公表に当たって、一義的な解答が示せない記述式の問題等については、「出題の意図又は複数の若しくは標準的な解答例等」を公表することとしています。

また、記述式の問題以外の問題についても、標準的な解答例として正答の一つを示している場合があります。

広島大学一般選抜（後期日程）  
令和6年度入学者選抜試験問題  
歯学部歯学科  
小論文  
出題の意図

問1

本問題は、科学の知識を社会の中でどう使うべきかを考える上で、科学では扱えない領域の判断が必要になることを文章から読み取らせ、その意味や判断の在り方に対する受験生の考えを問うものである。

物理学、化学、生物学などの基礎科学によってもたらされる知識が基盤となって、様々な技術が生み出され、私たちの生活は豊かなものになってきた。量子力学の知識を使って超高速コンピューターがつくられ、有機分子の化学反応に関する知識を使ってプラスチックがつくられ、免疫細胞の振る舞いに関する知識を使ってがん治療に効果のある抗体医薬品がつくられたという具合である。このような技術の基盤となる科学は、自然界の摂理について疑いの余地のない真実を与えるものである。

一方、そこから生まれた技術を実際に使うか否かについては、科学の知識をもとに判断することはできない。リスクとベネフィットのバランスを社会あるいは個人が判断しなくてはならない。医療の現場では、ある治療法の有害事象と効果のバランスを考えることが、患者にとって最適な治療を行うためには重要である。それらの判断の基準を与えるのは、政治であったり、私たち個人の良心であったりする。

受験生の解答には様々な記述が予想されるが、解答の中で、受験生の論理的な思考力、展開力や表現力を評価する。また、アドミッションポリシーに掲げる受験生の問題解決能力や将来医療人となるための責任感と人間性を評価する。

広島大学一般選抜（後期日程）  
令和6年度入学者選抜試験問題  
歯学部歯学科  
小論文  
出題の意図

問2

本問題は、会話の中には、発せられる言葉の正味の意味以上に多くの情報が含まれていることを指摘し、そのうえで、言葉以外の情報を読み取るにはどのような「教養以上の知性」、すなわち知的な能力を必要とするか受験生の考えを問うものである。

ここで言う「読むこと」とは、特定の言語を使用して文字に起こされた文章を通して、その意味をくみ取る行為である。他者の書いた文章を理解するには、表記された文字列の意味を理解するだけではなく、読者自身の知性を最大限活用して行間を読んだり、書かれていない情報を想像したりすることが重要である。この点で「読むこと」から、表記された文字列以上の内容を受け取ることが可能であると言える。しかしながら、その行為は一方通行的であり、また、反復可能性を有している。

一方、「話すこと」は、声として発せられた文章がもつ正味の情報に加え、会話という行為がもたらす付加的な情報を含むのが普通である。会話における間合い、抑揚、語気、方言、丁寧さなどに加え、会話者の表情、身体の動き、発語の癖などにも情報が含まれる。さらに、情報の授受は双方向的かつ一回性であり、「読むこと」とは対照的である。これらの情報を総合的に捉えるには、他者の人間性を深く理解し、また、多様性を理解して受容する態度が求められる。このように「話すこと」を通して効果的に情報を取得し、円滑に会話を進めるには、言語運用能力だけではなく、さまざまな「教養以上の知性」が必要である。

受験生の解答を通して、多様な人々と協働して学ぶ態度や問題解決能力を評価する。また、アドミッションポリシーに掲げる将来医療人となるための豊かな人間性、コミュニケーション能力、情報収集能力、プレゼンテーション能力を評価する。